

# 令和2年度学校自己評価システムシート ( 県立浦和第一女子高等学校 )

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 グローバルな視点で学びを支援し、自ら進路を切り拓く一女生を育成する。 2 部活動や学校行事などを通して、何事にも主体的に取り組む一女生を育成する。 3 外部連携を一層推進するとともに、一女の教育活動を積極的に発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	県内トップレベルの学力の生徒たちに対し、計画的な進路ガイダンスをはじめ、志を育成する数々の試みを行い、成果を上げている。また、Google Classroomの有効活用等ICTを活用した授業にも取り組んでいる。 今年度は、新学力観に沿った評価方法の研究を進めていくことが求められている。また、SDGsを軸とした探究学習の在り方を検討しつつ、取組の進化を目指していくことも課題である。	①授業改善への取組に対する共通理解 ②全職員による組織的な進路指導 ③SDGsを軸とした探究学習に関する取組	①教務部を中心として、生徒の主体的な学びを支援する体制を整え、ICTを活用した授業実践に取り組む。 ②学年、教科、進路指導部が緊密な連携を図り、各進路行事の運営を柔軟に行う。また、生徒一人一人に主体性を促す指導を行い、進路希望の実現を果たす。 ③探究学習部を中心として、SSH・SGH事業の内容をさらに進化させる。	①教科指導を含めた評価方法に関する研修会の実施状況 ・ICTを活用した授業実践の状況 ②進路情報の提供に対する生徒、保護者の満足度 ・変則的な行事予定下での進路ガイダンス、個人面談等例年同程度の実施 ③2学年の「総合的な探究の時間」の学習内容の見直し ・SSH・SGHプログラムの満足度	【全教職員共通理解の下、ICTの活用などを通じて生徒の学びを支援できた】 ・1月28日に教育課程研修会を行い、10班の小グループに分かれ討議を行った。 ・年度当初より、コロナ禍による臨時休業、分散登校が続いたが、1715本の動画配信等によりほぼ予定通り授業進度を確保することができた。 【状況に柔軟に対応し、組織的な進路指導を実施した】 ・生徒満足度約90%、保護者満足度約79%。 ・GoogleClassroom等を活用して例年並みの実績を確保した。 【SSH・SGHを連携させた探究活動によりSDGsの理解の深化を図った】 ・SSHとSGHの連携による探究活動を推進し、生徒の満足度も約92%となっている。	A A A	教務部を中心として、本校の課題解決に向けた研修会を持つことができた。具体的な実施策について、コンセンサスを得ていくことが課題である。また、新学習指導要領実施に向けた観点別評価導入についても研修を行ったが、具体的な評価方法について検討していくことが、必要になっている。 SGH事業の終了に伴い、今までの実績を生かした本校独自の探究活動を定着させる。
2	生徒は部活動や学校行事などに積極的に取り組んでいる。一方で、悩みを抱える生徒もいるため、組織的な支援に取り組んでいる。 今年度は、特に変則的な行事予定が予測されるため、部活動や学校行事について臨機応変な対応が求められる。また、生徒のメンタルヘルスについては、家庭との連携を大切に、教育相談を充実させる必要がある。	①部活動や学校行事における柔軟な対応と支援 ②120周年記念事業を通じた教育の振り返り ③教育相談体制の充実	①生徒会部を中心として、部活動や各行事において生徒たちが主体的に活動できる環境づくりを行う。 ②100周年記念事業以降の教育を検証し、次の10年を見通す。 ③学年、生徒指導部、保健環境部、教育相談委員会、家庭の連携を一層充実させる。	①部活動や各行事における生徒の満足度 ・各行事の実施状況 ②記念誌の編纂等を通じた歩みの振り返りに基づく将来構想の検討状況 ③スクールカウンセラーによる相談状況 ・支援を必要とする生徒の情報共有状況	【工夫と創意により、可能な限りの行事が実施できた】 ・学校行事や部活動に対する取組が標準以上に充実していると回答した生徒の割合、約97%。 ・コロナ禍における状況下でも、学習成果発表会やスポーツ大会・体育祭を工夫しながら実施した。 【過去20年の振り返りは、記念誌を中心として確認できた】 ・過去20年間の記録を中心とする120周年記念誌を発行した。 【教育相談体制の強化を図った】 ・高まる教育相談の需要に応じて相談の回数を当初予定19回から21回に増やした。 ・教育相談委員会を中心として、有機的な連携を図っている。	A B A	今年度のような非常事態が収束した後に、今年度経験し得た成果をどう生かしていくか、教育活動を効率化し効果を上げていくかが問われている。 教育相談的なケアを必要とする生徒が増えている状況があり、カウンセラーの効率的活用、円滑な医療機関との連携等を強化していくことが肝要である。
3	昨年度は、HPのリニューアルや学校説明会の内容改善等を進め、情報発信力を高めることができた。また、各種の学校や地域との連携さらに海外の学校等諸機関との交流を推進している。 今年度は、外部連携の在り方を見直しながら、その取組を一層推進することが求められる。また、公立女子高校の魅力積極的に発信していく必要がある。	①外部機関との連携 ②本校教育活動に関する情報発信の充実	①渉外部が中心となって、PTA・同窓会との連携を深めるとともに、学年、分掌、委員会が中心となって、様々な連携を充実させる。 ②諸行事の充実を図るとともに、教務部を中心として、全職員で情報発信を行っていく。	①保護者アンケートにおける学校満足度 ・地域行事等への生徒の参加状況 ②授業公開及び学校説明会の実施状況 ・HPのアクセス数年間10万件以上 ・志願者数の増加	【外部との連携は、難しい面もあったが、新しい取組も行った】 ・コロナ禍により、保護者の来校が制限される中、HPや一斉送信メール、GoogleClassroomによる発信等で極力学校の様子を発信した。 ・保護者アンケートによる学校への満足度は約98%である。 ・例年の地域活動は中止となったものが多かったが、新たに浦和駅とのコラボレーション活動で、本校の活動をアピールできた。 【HPを中心に情報発信を充実させた】 ・規模を縮小したが、当初予定より1回多く説明会を行った。 ・HPアクセス数約28万5千件(1月末時点) ・12月の進学希望倍率1.41倍(昨年同期1.40倍)。	A A	コロナ禍の中で培ったノウハウを、その後の教育活動でも生かしていくことが求められている。 今年度中止となってしまった活動など、再開するにあたってその内容、方策等改めて検討してみる必要がある。 進学校として中学生・保護者から一定の支持を得ているが、さらに長期的課題について検討し、その基盤をゆるぎないものにしていくことが、社会的な使命といえる。

学校関係者評価
実施日 令和3年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による臨時休校・分散登校が行われる中、動画配信など創意工夫により予定通りの授業進度を確保したことは、適切な対応として評価できる。</li> <li>・ICTを活用した学習を推進していることや、SDGsに対する取組に努めていることは評価できる。</li> <li>・今年度は、予期せぬ状況から対応を迫られた面があったと思うが、これからは枠にとらわれず、新しいことにチャレンジしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が制限、中止される中、生徒が成長できる代替行事が用意されたことは良かった。また、生徒の行事への思いの強さが明確になり、集団としての意識、支えあいの意識づくりがなされたのは素晴らしい。</li> <li>・SSH等通じて、本物に触れ将来を考えるチャンスを多くしてほしい。</li> <li>・心の不安に対し、教育相談の回数を予定よりも増やして対応したのは良かった。教育相談については、これからも力を入れていただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、HP、一斉メール、GoogleClassroom等を活用したことは、保護者からも大いに評価されている。</li> <li>・学校説明会の回数を減らさざるを得ない状況の中、HP閲覧数が増加し、効果をあげたのは評価に値する。</li> <li>・来年度は今年度の経験を活かした各取組の充実を期待している。</li> <li>・新しい取組等に関して、社会から期待される時代である。社会に影響を与える取組に期待している。</li> </ul>